設立趣意書

太古の森はどんな姿だったのでしょうか。数百年の時を刻む秩父の巨木たちを前にして、人が森の住人であったころの森の姿に想いをかき立てられます。森から生まれた人は、その後どのように森と向き合ってきたのでしょうか。人は、自己本位に森を利用し、自己本位に森を見捨ててきた時代を有しています。いま、人と森が共生する時代を迎えているといわれています。森を一つの生態系として認め、持続可能な開発と森林原則が提起された地球サミットから20年が経とうとしています。しかし、秩父の山々、森、川は本当に健全であるといえるのでしょうか。人が森を育み、森が人の暮らしを豊かにするサイクルが、本当に成り立っているといえるのでしょうか。

私たちは、その答えを、森と素直な心で向き合うこと、幾世代に亘り秩父の森を守ってきた人々の知恵に真摯に学ぶこと、そして、山と里と街の人々が本当に手を携えることを通して、追求していきたいと考えています。森の声を聞き、沢山の命の宿れる森の再生のために、自然からの学び、地域の誇り、そして多くの人々との連携を私たちの行動理念とします。

秩父市の森林面積は、市の 87%を占め、産業、暮らし、教育にとってこれからも大きな役割が期待されています。いま、秩父の森林資源は、ようやく成熟期をむかえ持続可能な森林経営の真価が問われようとしています。また、荒川源流の山々の森林もかつてのように豊かに再生されつつあります。私たちは、この豊かな森林を保全していくために人と人、人と森とが深く結びつくことが必要であると考えてきました。そして、人も百年の生を享受する時代、森も百年の計が求められています。これからの百年を見通した森林デザインに欠かせない要素は、次の三つの連環を創造していくことであると考えています。

その第一は、環境共生型社会のために、あらゆる領域において、山と里と都市の人々の連環を創造し発展させることが必要であると考えています。

第二に、私たちは、地域全体による森林のデザインが求められる時代において、地域の連携を進めていくことが必要であると考えています。幾世代に亘り秩父の森を守ってきた人々の知恵に真摯に学びながら、新たな環境技術や林業技術を活かしながら、地域の連携をめざしていきます。

第三に、私たちは、未来の環境の主体者である子どもたちに、森林の大切さを伝える、世代をつなぐ連環が必要であると考えています。幼・小・中・高・学生に対する森林をフィールドとした環境教育活動の充実をめざしていきます。

私たち「NPO 法人秩父百年の森」は、森林に関する調査・研究・プランニングの領域において、三つの連環の創造をめざしながら地域と未来の森林のために貢献していきます。

平成 22 年 8 月 30 日

理事長　島　﨑　武　重　郎